

# なでしこ通信 第 35 号

《隔月発行》

## — 目 次 —

### ★子宮頸ガンワクチンは安全か？

- ・子宮頸ガンは性感染症
- ・ワクチン接種を推進しているのは……
- ・ワクチンは安全か？

### ★良書紹介

石田勝正著「抱かれる子供はよい子に育つ」, PHP 研究所

## 子宮頸ガンワクチンは安全か？ ■ □

6 月後半になって突然、子宮頸ガンワクチンの問題がネットやメディアを賑わすようになりました。7 月 20 日付け産経新聞にも、19 日に同社が主催した、予防ワクチンが昨年承認された子宮頸ガンについて考える「女性のための医療フォーラム」のことを報じております。胃癌経験のある漫才師の宮川花子さんや婦人科医らが「子宮頸ガンは予防できる」と約 800 人の入場者にワクチン接種と検診受診を呼びかけ、英国ではワクチンを無料化して接種率を高めたという話が紹介されたそうです。

## ◆◆◆子宮頸ガンは性感染症◆◆◆

めざす会では、一昨年秋、ジャーナリストの桜井裕子先生をお迎えして第 7 回講演会「若者に蔓延する性感染症」を開催いたしました。子宮頸ガンがどのような病気であるのか、振り返ってみたいと思います。

ご講演で桜井先生は、

「初交年齢の低年齢化の弊害について、学研の教師用指導書にどう書いているか。『性器の発育途上になる 10 代の女性は子宮の内膜がまだ膣内に露出しているため、感染の危険性がいつ

そう強い』と書いてあります。10代の女性が性感染症に対してどれほど脆弱であるかということデータを基づいて申し上げますと、16歳以下で性交渉をした場合、19歳以上に比べて子宮頸ガンになる確率が16倍高まります。子宮の入り口のところを子宮頸部といいます。近年、子宮頸ガンが非常に増え、低年齢化しております。さらに、初経から1年以内に性交した場合、初経から10年以上経って、大体23歳ぐらいになってから性関係を持った場合と比べて、子宮頸ガンになる危険性は26倍。」

「もう一つ、若年の女性にとって非常に脅威になっているのが、尖圭コンジローマ。これに罹ると100%子宮頸ガンでございます。それも今、20代、30代未満の患者が非常に増えておりまして、平成19年度から、私たちの頃は40歳からでしたけれど、20歳代から子宮頸ガンの検診が始まりました。」

と子宮頸ガンの低年齢化を憂えておられます。

また、ご著書『性教育の暴走』（扶桑社）では、人体の素晴らしさを、女性の膣の機能を例に挙げて以下のように説明されています。

性交することで、女性の膣には男性の精液というたんぱくが入ることになります。これは女性の体にとって、異物、異種たんぱくであってその体内への吸収は免疫機能に対して少なからぬ負担となります。

さらに、消毒もしていない、或る意味で不潔な外敵である男性のペニスを受け入れても、膣が病気にならずにいられるというのは、膣にいるデーデルライン桿菌という、善玉菌が膣内を強い酸性環境に保って、雑菌の侵入を防いでくれるからです。

異種たんぱくや、細菌、ウィルスのような外敵から、ある程度までは自分を守り、性交や分娩にも耐えられるように神様が女性にくれたものが膣と言えます。医学的立場から一夫一婦制を見たとき、体液の交換であり異種たんぱくを受け入れる相手を一人に限るとするのは、とても理にかなったことであることがわかります。

子供たちを性の氾濫から守る施策の方向として、以下のような調査結果も紹介されております。

17年度に群馬県教委が、小中高の生徒6222人、教員1714人、保護者6222人を対象に行った「性教育に関する調査研究事業」の調査を紹介されています。中学生は、朝食の摂取率が低いほど、低年齢での性行為を認めていますし、家族とよく話す中学生ほど、自分のことが好きだと考えています。また、家族との会話が多いほど、性行為へのハードルが高くなっています。家族関係が円満・緊密で、コミュニケーションがとれている、いわば「愛されている」生徒ほど、自分のことが好きであり、自尊感情があるということです。そういう子どもは、性行為は結婚相手とするものという一定の性規範が確立されていると解説されています。

## ◆◆◆ワクチン接種を推進しているのは・・・◆◆◆

この度の参議院選挙で当選されたタレント議員の三原じゅん子さんは「2年前、私は子宮頸ガンにかかりました。他の人に同じ苦勞をさせたくない。子宮頸ガンはワクチンで予防することができるのです。これを公費負担にすれば、多くの女性が救われます。そのために政治の力を・・・」と。

英国の製薬会社グラクソ・スミスクライン株式会社は、民主党の鳩山内閣が発足後まもなく、子宮頸ガン予防ワクチン「サーバリックス」を平成21年10月16日に日本国内で製造販売承認を取得し、12月22日から日本で販売を開始しました。

しかし、ワクチン接種に一人当たり約5万円程度費用がかかる（3回重ねて打つ必要がある）ため、接種が進んでいませんので、5年ほど前より接種が始まっている欧米諸国のように公費でワクチン接種の費用の全額ないし一部を補助しようという運動が全国で起こっています。これを推進しているのは、「新日本婦人の会」（共産党系の団体）、創価学会・公明党、野田聖子を中心とする自民党婦人部、そして民主党です。民主党と自民党の政策集（マニフェスト）でもこれを推奨しています。

推進派は言います。

「ようやく国内での販売が認められたサーバリックスであるが、被接種者や保護者が費用を自己負担することにしたのは最大の問題である。その背景には、巨額の赤字を抱える現状がある。しかし、ワクチン接種により癌の予防に努める方が、感染を放置するよりも治療費用などを節約できる。」

「今年の5月半ばには、栃木県大田原市が小学6年生に集団接種を実施したが、市民の評判は上々だった。」

「子宮頸ガン ワクチン」で検索しますと、医療機関が美辞麗句を並べたサイトが山ほど出てきますが、そもそもワクチンが「いいことづくめ」なはずはありません。

## ◆◆◆ワクチンは安全か？◆◆◆

子宮頸ガンとは、100パーセントHPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルスの感染によって起こるとされています。ほとんど、性交渉によって人から人へと感染するものです。性交渉のない女性にはHPVはありません。

癌は、基本的に定期健診で早期発見して治療すべきものです。既に感染している女性がワクチンを接種しますと癌になる可能性がある（海外の発症例が報告されている）ために、未感染の11歳～14歳の女性を中心に接種しようとするものです。

しかも、このワクチンにはアジュバンド（免疫賦活剤または免疫増強剤で輸入物）が添加されています。アジュバンドとはもともとペットの去勢・避妊薬として開発されたもので、これを人間に与えますと、一切妊娠ができなくなる恐れがあります。推進派は、サーバリックスと不妊化には関連性は無いと安全性を主張していますが、これを裏付ける臨床試験の結果はありません。アメリカでは50人以上の死亡例があり、当のグラクソ・スミスクライン社が「サーバリックス」を「劇薬」と指定し、添付文書には、副作用が大きく、病気予防の効果効能を保証できないとしているのです。

このワクチン接種を進める際に、「これを接種すれば、誰と性交渉しても大丈夫」というような、行きすぎた性教育が、自由な性交渉を推進するジェンダーフリーや男女共同参画推進派によって小学生、中学生にされています。

また、このワクチンに関し、すべて助成しようとしますと全国で約1800億円以上かかります。どこの地方公共団体も財政難であえいでいる時に、このようなワクチンの助成をする余裕はどこにもありません。にもかかわらず、不思議なことに、全国の多くの議会で賛成多数で公費助成が可決され、実施されています。

ワクチンが安全であるという確証がないうちは、ワクチンの接種を推進すべきではないのではないのでしょうか。危険性を告知せずに、単に厚生労働省の認可を受けているから安全であるという程度の説明しか行わず、あるいは危険性についての説明を全くせずに接種を実施している医療関係者や機関、また教育に携わる関係者に対して、断固とした対応が必要なのではないのでしょうか。

## 良書のご紹介 「抱かれる子供はよい子に育つ」

～確かな「存在感」をはぐくむ愛の心理学～

国立京都病院医長 石田 勝正 PHP 研究所 1170 円＋税

### 日本に児童虐待がもたらされた時代の背景

児童虐待は、「存在感」がゆらいでいる母親の、にこやかにかわり合ってくれない子供に対する異常なかかわり合いの脳の活動なのです。もともと親の存在感が希薄な場合に、児童虐待が引き起こされやすいということです。

このような虐待をする心の原因に、他の原因が追加されることがあります。夫婦仲が悪ければ、「こんな子供なんか」と思う気持ちが倍加されます。あるいは、外での仕事の方が、子育てより好きだと思っている母親は、「こんな子供なんか」と思いやすくなります。

このような児童虐待という悲劇がアメリカから日本へ上陸したのも、その根底をさぐれば、社会が働く女性を求め、誤った育児法をすんなり受け入れてしまうという、高度経済成長をめざした時代の背景があるからです。

「抱きぐせをつけるな」「赤ちゃんをあまやかすな」「粉ミルクがよい」「ゼロ歳児保育の施設を増やせ」「女性の自立を促し雇用の促進を」……等々は、皆、子供や、女性や、家庭や、社会を、不幸にしてゆく考えであり、日本で児童虐待が起こるようになった原因もここにあることに、皆が早く気づくべきです。

(第十一話 なぜ、親による児童虐待が起こるのか？より一部抜粋)

## ■■■ 事務局から ■■■

◆◇◆ 友好団体「円ブリオえひめ」の講演会ちらしを同封致しました。講師の中川志郎氏は「いま政権が、子育て支援や教育に力を入れています。それ自体は僕も賛成なんですが、どうも、親が働きやすくなったり、趣味の時間がとりやすくなったりすることが目的になっているように感じます。育てられる子供の側に立って、政策がどういう意味を持つかという深い考察がないんじゃないか。生まれたばかりの子どもが絶対的に必要としている母親を、遠ざける政策になっていないか」とおっしゃっておられます (WEDGE 2010年4月号)。

◆◆◇ 平成21年度の収支決算報告書を同封致しました。3月末現在では赤字になっておりますが、7月現在は黒字に転換しております。会員数の割に会費収入が低いのは、冬眠会員さんが多くおられるためでございます。

◆◇◆ 会費の切れる方に払込取扱票を同封しております。会費は1000円でございます。この機会にご家族や親しい方にもご入会いただければ幸いです。1000名を目指しております。現在742名でございます。

### 健全な男女共同参画社会をめざす会

代表 青井 美智子

〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

ホームページ <http://www.mezasukai.com/>

電話 090-8971-7721 ファクス 089-964-3903 メール t64r59@bma.biglobe.ne.jp